

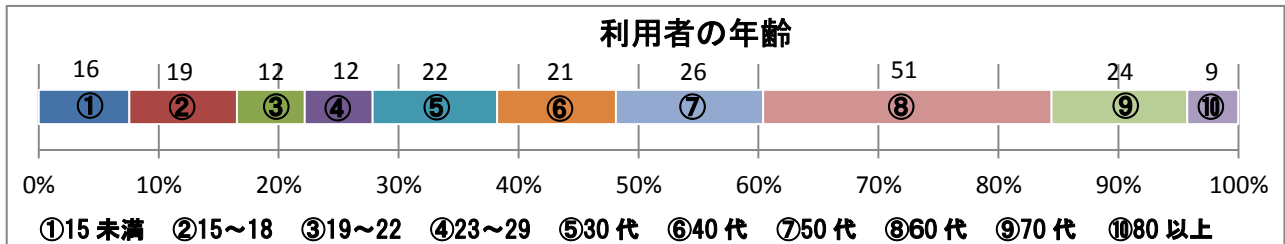
資料

利用者アンケートの結果

当館の施設やサービス等に対する利用者の意識等に関するアンケート調査の主な結果は次のとおりです。

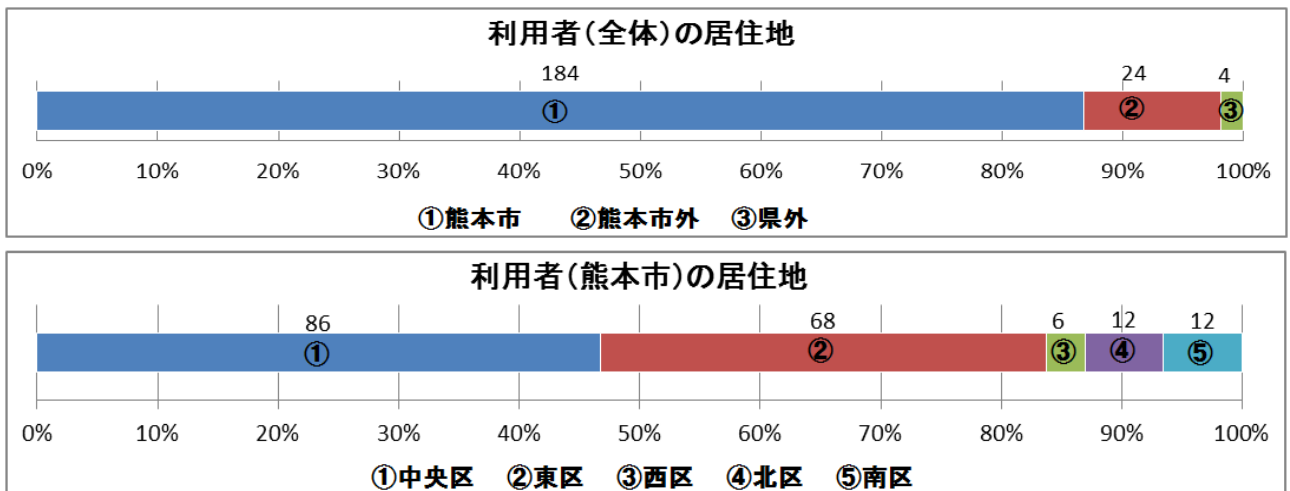
- ・実施期間：平成30年(2018年)7月12日～7月26日
- ・対象：実施期間中の入館者
- ・総回答数：212
- ・グラフ上部の数字は回答数

1 利用者の年齢



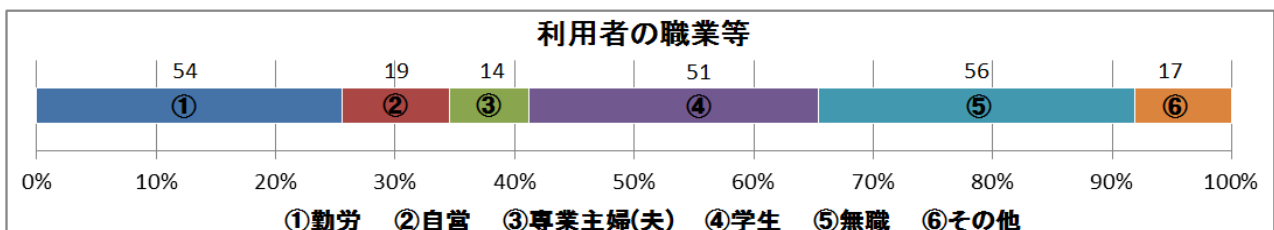
利用者の年齢は15歳未満から80歳以上までの各年代にわたっています。最多は60歳代、最少は80歳以上で、60歳以上の人全体が全体の約4割を占めています。

2 利用者の居住地



利用者の居住地は、熊本市が約9割で、そのうち8割強が当館の位置する中央区と近接する東区です。県外からの利用者も見受けられます。

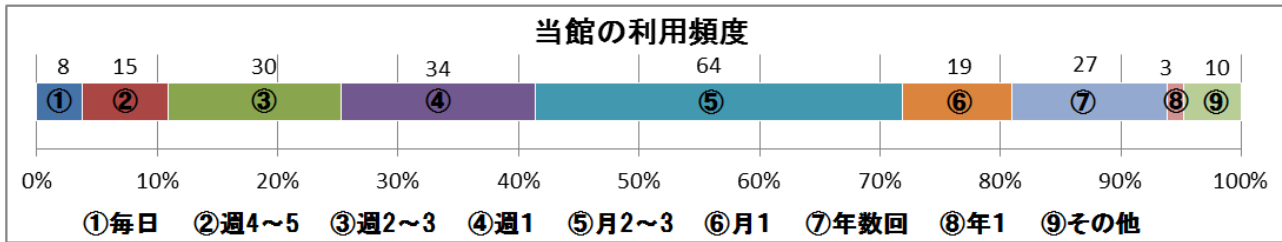
3 利用者の職業等



その他：会社役員、パート、アルバイト、介護福祉士、障害者の作業所、職業訓練校

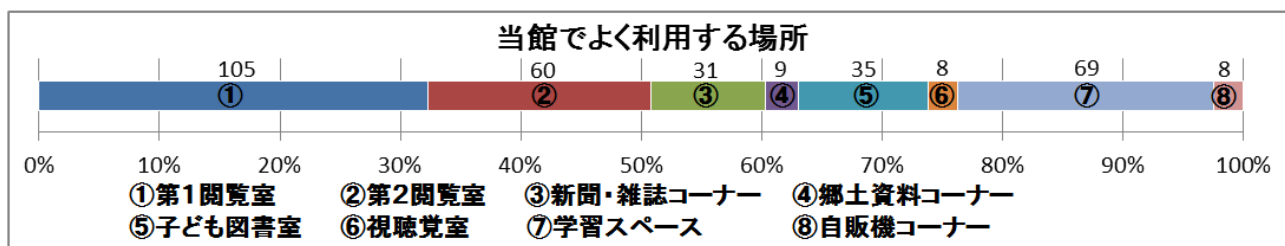
利用者の職業等は、多い順に無職、勤労者、学生となっています。無職と答えた人の大半は60歳以上の高齢者です。

4 利用頻度



利用頻度は月 2~3 回が最多です。これは、当館の貸出期間が 2 週間であることに起因していると考えられます。また、毎日を含めて週 1 回以上利用する人が 4 割強で、月 2~3 回と合わせると全体の 7 割を超えています。

5 よく利用する場所



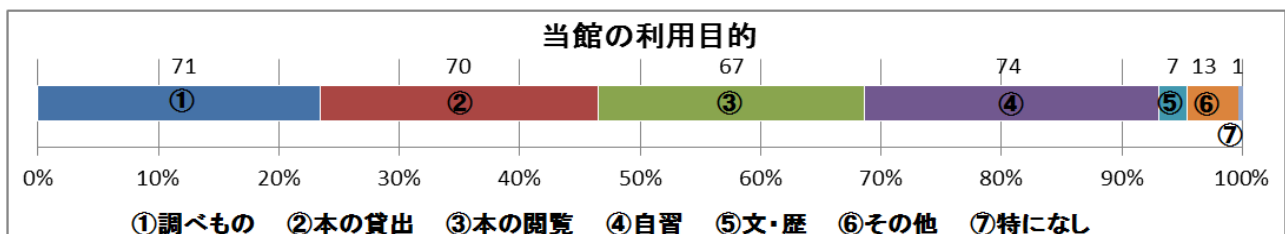
最も利用が多いのは一般書を扱う 2 階第 1 閲覧室で、次が 2 階と 3 階のラウンジに設置している学習スペースです。子ども図書室は他の閲覧室に比べて少なくなっていますが、実際には子育て世代を中心に継続的に利用している人は少なくありません。

6 利用時間

利用時間の平均は約 2 時間 54 分です。

最短は 10 分、最長は 9 時間です。学習スペースを利用する人としらない人の利用時間を比較すると、利用する人の平均が約 4 時間 19 分、利用しない人の平均が約 2 時間 13 分です。

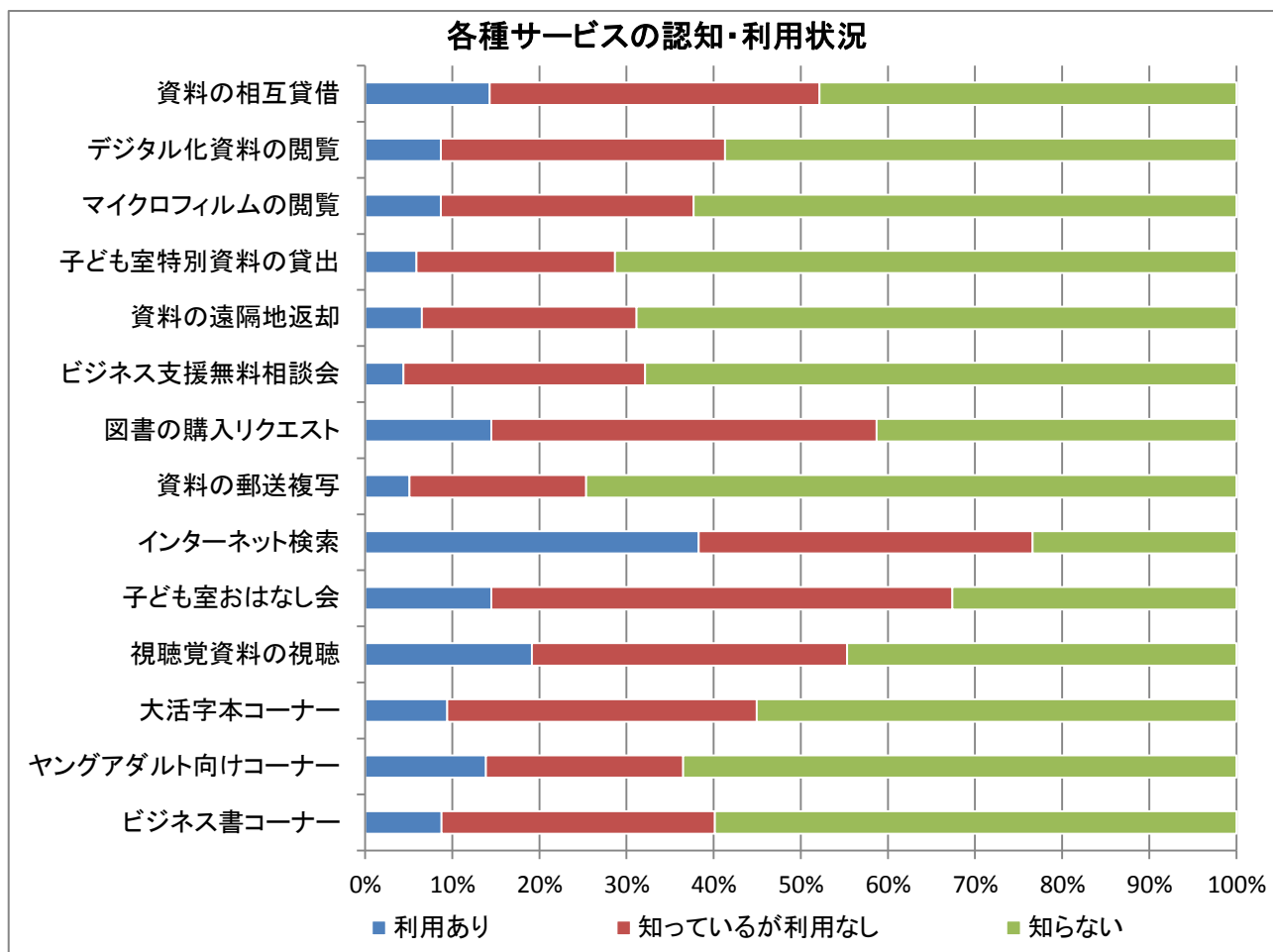
7 利用目的



その他：・新聞(新と旧)・新聞の閲覧・涼みにくる・熱中症防止・ストレス解消・新聞、雑誌・ビデオの視聴・音楽(CD)の視聴・九州の各新聞・立地、気候・音楽鑑賞・古文書の史料集め

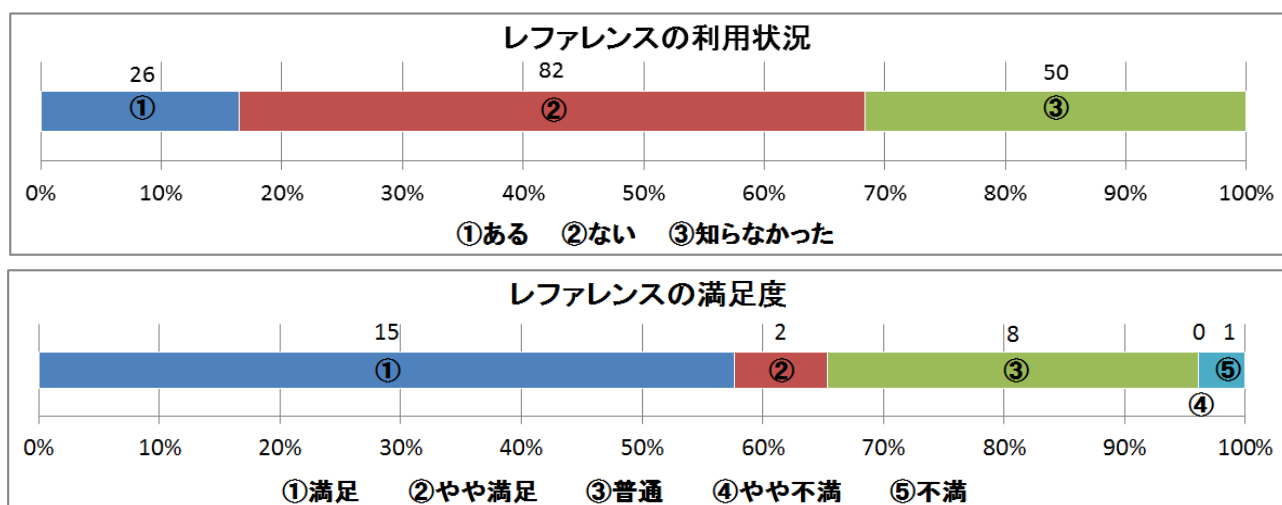
利用目的では、多い順に自習、調べもの、本の貸出、本の閲覧となっています。

8 各種サービスの認知・利用の状況



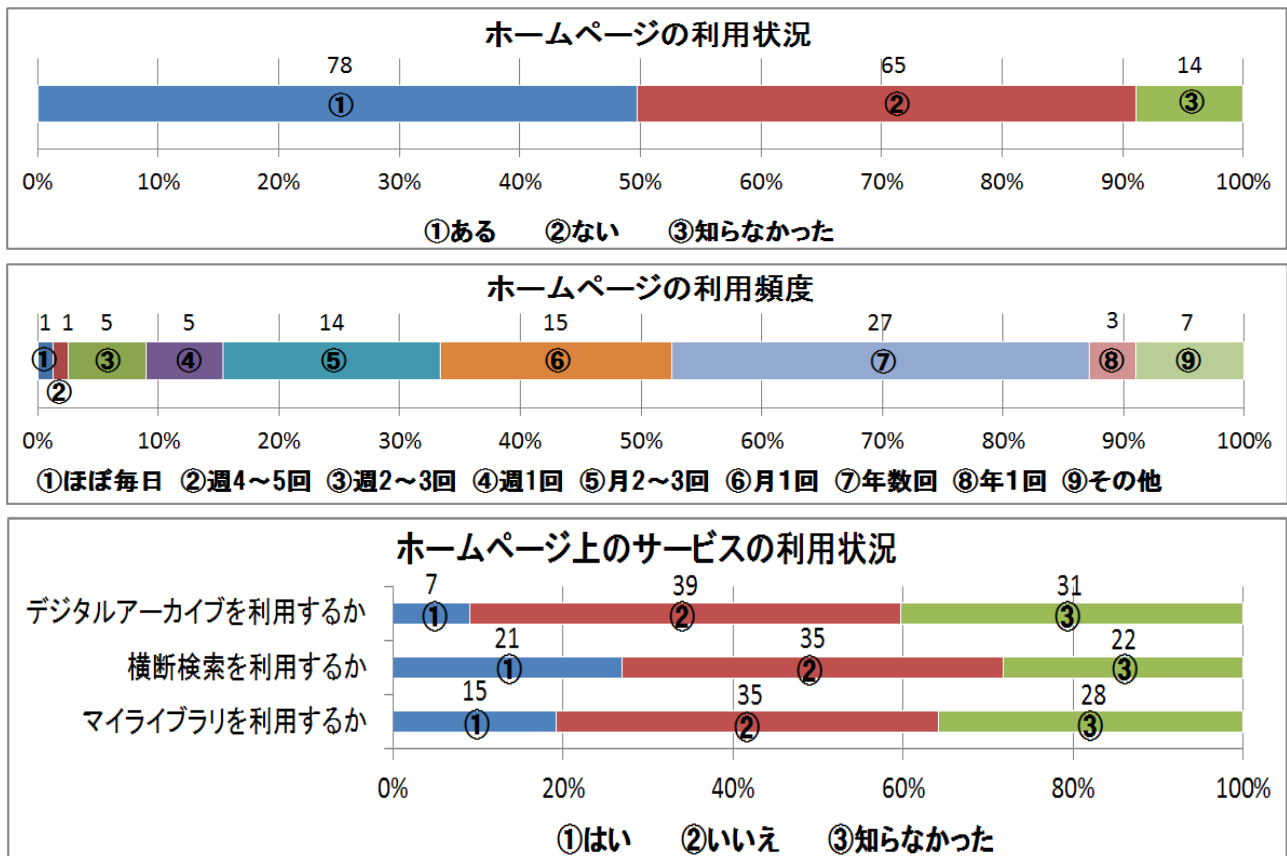
提供する各種サービス等は、項目によって周知及び利用の状況に大きな違いが見られます。

9 レファレンスの利用状況と満足度



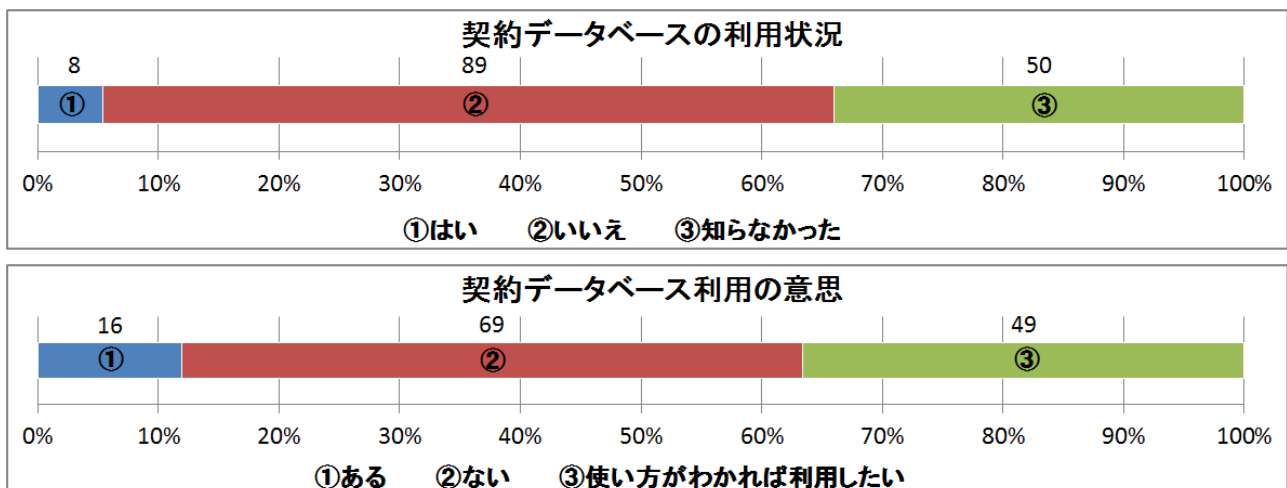
レファレンスを利用したことがある人は全体の2割弱で、レファレンス自体を知らなかった人も3割を超えています。一方、利用したことがある人の約65%はレファレンスの結果に満足しています。

10 ホームページの利用状況と利用頻度



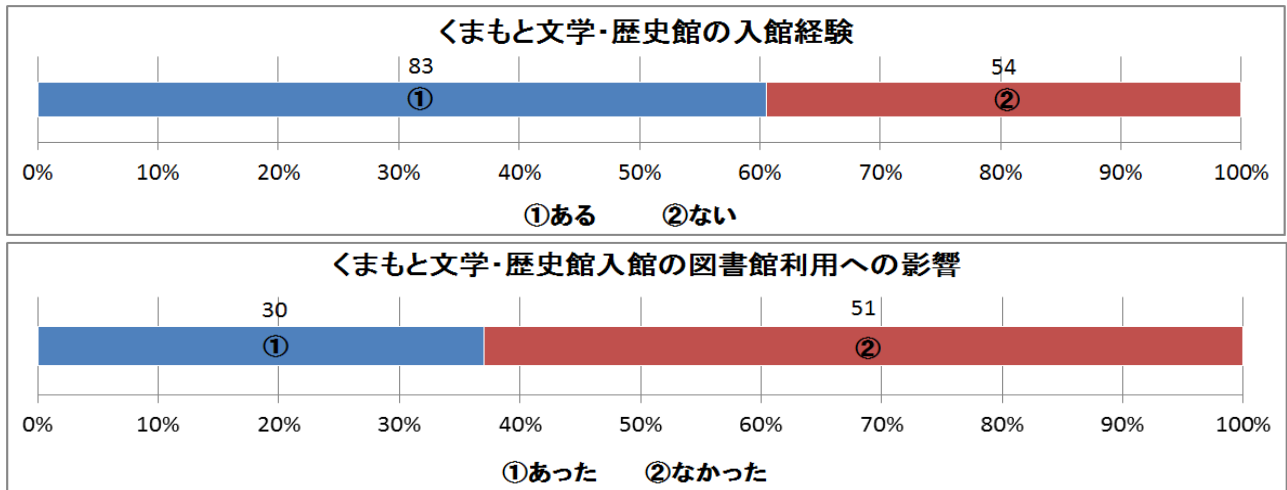
ホームページの利用経験がある人は約5割です。利用頻度は年数回が最多で、大半の人が月数回以下と答えています。ホームページ上の各サービスを利用する人はいずれも3割に届かず、それぞれ約3~4割の人がサービス自体を知らなかったと答えています。

11 契約しているデータベースの利用状況と利用の意思



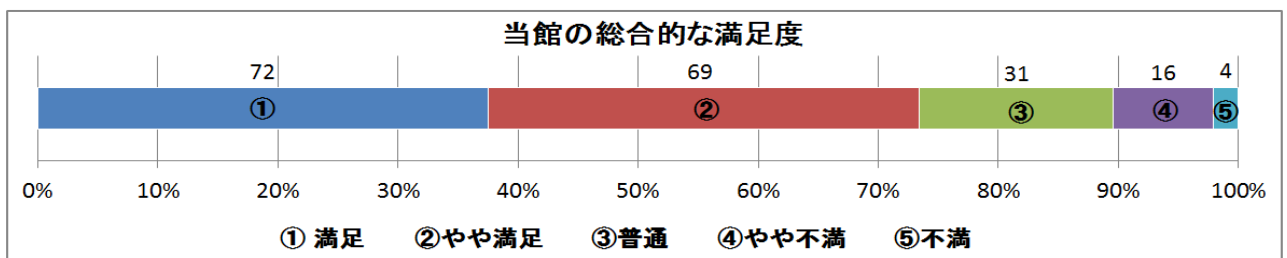
提供元と有料契約し利用者に無償で提供するデータベースを利用したことがある人は約5%で、データベースが利用できることを知らなかった人も3割を超えています。一方で、4割弱の人が、使い方がわかれば利用したいと答えています。

12 くまもと文学・歴史館の入館経験とその当館利用への影響



利用者の約6割の人が併設する文学・歴史館への入館経験があり、そのうち約4割の人が、文学・歴史館での見学が当館の利用に影響を与えたと答えています。具体的には、「展示解説で初めて知った事柄を図書館の本で改めて確認する」「紹介されている人物の関係本を読んだ」「歴史上の人物の書物を調べたいと思った」などです。

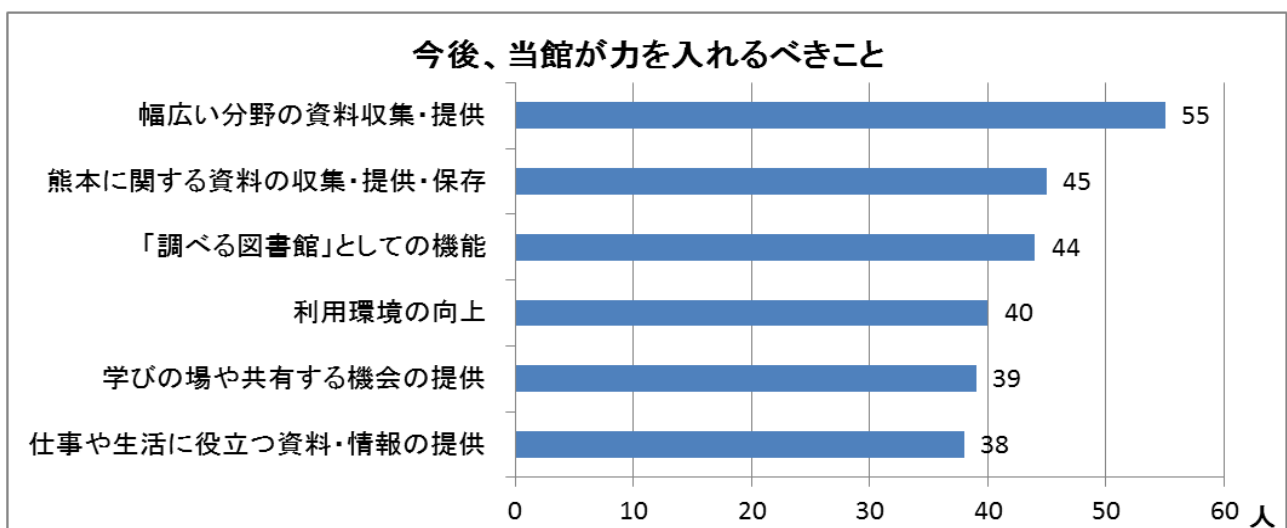
13 総合的な満足度



総合的な満足度としては、7割強の人が満足またはやや満足と答えています。理由として多いのは「利用環境がよい」、「職員の対応がよい」、「蔵書が多い」です。

一方、約1割の人が不満またはやや不満と答えています。理由は「蔵書が少ない」「職員の対応がよくない」「利用環境がよくない」などです。

14 今後力を入れるべきこと



今後、力を入れるべきこととして、回答数が 30 を超えたものを挙げています。最も多い回答は「幅広い分野の資料収集・提供」で、2 番目は「熊本に関する資料の収集・提供・保存」、3 番目は「『調べる図書館』としての機能」でした。